

仕事がない、働き場所がないという時、じっと考えを巡らせているだけで境遇は開かれるでしょうか。

今から十年前のこと、リーマンショックの影響により、A建設会社の売上がガクンと落ち込みました。二カ月ほど仕事がない中、経営者のY氏は、藁にもすがらうような気持ちで倫理法人会の講師に倫理指導を受けました。

講師より「忙しいから」と言っ、やらずにいたことではありませんか。仕事がない時にこそ、できることがあるのではないですか」と言われたY氏には、思いあたることがありました。その一つが整理整頓です。会社の倉庫にはいつも物が乱雑に置かれていました。片付けようと思いつながらも、長年、整理整頓を怠っていたのです。

また、社内の朝礼も「活力朝礼」を取り入れてはいたものの、形だけでマンネリ化して、活気があるとは言えない状況でした。社員間でも活力が漲るところか、「忙しくて大変だ」という愚痴が飛び交っていたのです。

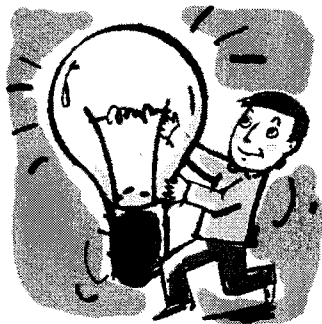
倫理指導を機に「自分が今できることをやってみよう」と決意したY氏。不要な物を片付け、毎朝の清掃を徹底して行なうようになりました。また、朝礼での挨拶実習では、明るく元気な声を出すように取り組みました。

率先して動くY氏の姿に呼応するように、社内の空気は自然と引き締まっていきました。否定的な発言が減り、暗い雰囲気も徐々に払拭されていったのです。

その翌年、これまでになかった他県からの発注が入り、

2月のテーマ | 活路はどこに

もろにもろに  
ある仕事は  
きざし  
なるべし  
や



長期出張を社員に頼まざるを得ない状況になりました。〈果たして社員は賛同してくれるだろうか〉という不安があったY氏ですが、出張の話を切り出すと、社員全員が「やりましたよ!」と快諾してくれました。いつの間にか、以前とは見違えるほどの連帯感が生まれていたのです。その後、仕事量も少しずつ回復し、A社は数年で経営危機から立ち直ることができたのです。

仕事がないことほど、会社にとつて、辛く苦しいことはありません。その時に「今だからこそ、できることがある」という受け止め方ができるかどうか。ここに岐路があり、Y氏の活路があったのです。

先頃、新装丁版が発行された『万人幸福の栞・解説』に、「仕事がないという人に」と題された文章があります。

「**寝ているところを、きちんとしているでしょうか。寝て二をたたむとき、一晩よく休ませてくれましたか。よろこびの感謝をさげ、よろこんでたんでいいでしょうか。床にゴミでもおちていけば、よろこんで掃除をするでしょうか。人の家の前まで、はいてやったことがあるでしょうか。仕事がないといってもわが身のまわり、家の内外などに、よろこんでなすべき仕事、山のようにあるのではないのでしょうか。**」(『万人幸福の栞・解説』丸山竹秋著)

ここには「じっと思い悩んでいるよりも、できることを、喜んで進んでやっていく中に、きつとふさわしい仕事を与えられる」ということが述べられています。まさに運命は自ら招き、境遇は自ら造るものなのでしょう。